

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 毎年3月31日  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話照会先 **フリーダイヤル** 0120-782-031  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の  
本店および全国各支店で行っております。

## ホームページの ご案内

当社は、株主・投資家の皆様にタイムリーでわかりやすい情報発信を目指し、ホームページの充実をはかるなど、IR活動の向上に取り組んでいます。



<https://www.seikoh-giken.co.jp/irinfo/index.html>



## 特集

多様な産業の  
発展を支える製品群  
～精工技研の製品紹介～

# 株主通信

2020年3月期(第48期) 事業報告

2019年4月1日～2020年3月31日

## 情報通信、自動車、医療・バイオ等の成長市場に向けて 当社の精密加工・精密成形・光学技術を応用し、 市場や顧客のニーズに応える新製品、新技術の開発に取り組みます。



代表取締役社長  
上野 昌利

### 2020年3月期の業績について

当連結会計年度における世界経済は、年度前半は、米国と中国の貿易摩擦を背景に、総じて減速感が強まることとなりました。本年1月には米中間の通商問題が「第一段階」の合意に至りましたが、かわって新型コロナウイルス感染症が拡大しています。

当社グループが関わる情報通信関連やエレクトロニクス関連市場においては、世界的に第5世代の移動通信システム「5G」の商用サービスが拡大しました。AIやIoT等のデジタル技術は、生産性を改善するツールとして、また省人化や消費者の利便性を高める手段として、実際のビジネスシーンで多く使用されるようになりました。自動車関連市場は、CASE（Connected、Autonomous、Shared、Electric）に代表される大きな転換期を迎えておりますが、中国経済の減速等により自動車の販売台数の伸びは鈍化することとなりました。

こうした中で当社グループは、2016年度から取り組み始めた6ヶ年の中期経営計画「マスタープラン2016」の後半3年間（第2フェーズ）をスタートさせ、引き続き「既存事業の収益力強化」、「事業ポートフォリオの最適化」、「経営基盤の強化」の各施策の遂行に取り組みました。

「既存事業の収益力強化」に向けては、精機事業と光製品事業の両セグメントにおいて販売力と価格競争力を強化すると共に、技術資源である精密加工・精密成形・光学技術を応用して新製品、新技術の開発に取り組みました。「事業ポートフォリオの最適化」に向けては、「成長期待事業」に位置付けている精密樹脂成形品やレンズを「成長牽引事業」へと進化させるべく、顧客やパートナー企業との連携強化に努めました。「経営基盤の強化」に向けては、国際経営会議やグローバル品質ミーティング等を通して、当社グループ会社間の価値観の共有や事業課題の解決に向けて議論を行いました。本社においては、小集団活動や働き方改革「メリハリワーク」を推進し、より短い

時間でより多くの収益を上げる組織体質の確立に努めました。

こうした諸施策を実施した結果、当連結会計年度の売上高は157億29百万円（前連結会計年度比1.5%増）、営業利益は16億14百万円（前連結会計年度比0.3%減）、経常利益は16億88百万円（前連結会計年度比3.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は11億52百万円（前連結会計年度比6.5%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ● 精機関連

精機関連では、精密成形品や精密金型、精密金属部品等をお客様にご提供しております。当連結会計年度は、自動車に搭載するセンサー用基幹部品等、車載用成形品の売上を堅調に伸ばすことができました。一方、スマートフォン等に使用される金属プレス成形品は、販売価格の下落圧力に加え、新型コロナウイルスの感染拡大によりサプライチェーンの一部が停滞し、売上が減少することとなりました。開発面では精密金型や薄肉成形、微細転写等の技術を応用し、自動車や医療、バイオ等の産業領域において、新たな製品の量産化に向けた技術課題の解消に取り組みました。

これらの結果、当連結会計年度の精機関連の売上高は88億8百万円（前連結会計年度比0.9%増）となりました。

#### ● 光製品関連

光製品関連では、光通信インフラに使用される光コネクタ等の部品や、これら光通信用部品の製造機器、検査・測定装置、超小型樹脂レンズ等を主力製品としています。現在、5Gの本格的な商用化に向けて世界規模で光通信網の増強が進んでおり、光通信用部品の需

要が増加傾向にあります。しかしながら当連結会計年度は、米中間の通商問題を背景に、中国企業のデータセンター投資や、米国からの制裁対象となった中国通信機器大手企業を介したサプライチェーンが停滞し、光通信用部品は売上が伸び悩むこととなりました。一方、樹脂レンズは、海外のスマートフォン機種に採用され、売上が増加することとなりました。

これらの結果、当連結会計年度の光製品関連の売上高は69億21百万円（前連結会計年度比2.2%増）となりました。

### 次期の見通し

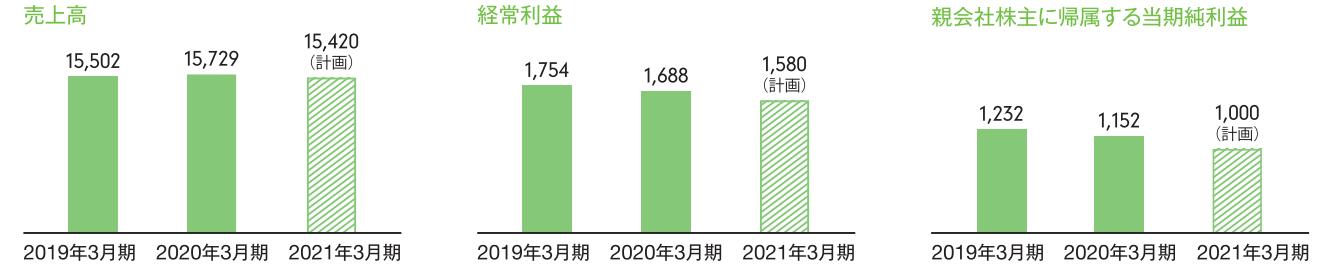
2021年3月期（2020年4月1日～2021年3月31日）の当社グループが関わる市場においては、引き続き世界的に光通信網の増強が進むことが見込まれています。自動車関連市場においては、自動運転の実用化に向けた技術開発が進む見通しです。このように全体的な市場

動向は追い風ではあるものの、新型コロナウイルスの感染拡大が収束するまでは、企業の投資は低調に推移することが予想されます。

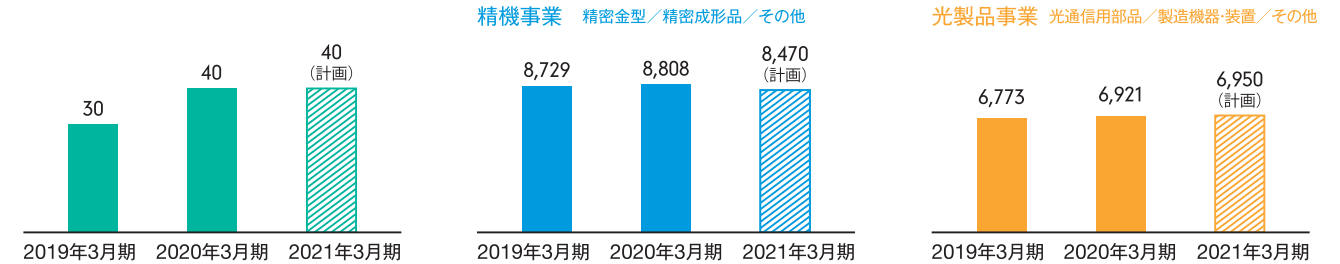
こうした環境下において、当社グループの次期の連結業績につきましては、売上高は154億20百万円、営業利益15億円、経常利益15億80百万円、親会社株主に帰属する当期純利益10億円を見込んでおります。当該見通しは、新型コロナウイルスの感染拡大は年度後半から徐々に収束に向かう想定で、その影響額を算出しております。なお2021年3月期の期末配当は、安定的な配当を継続的に行うという方針のもとに、当期と同額の1株当たり40円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループをご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

### 連結損益計算書の概要 （単位:百万円）



### 一株当たり配当金 （単位:円）



映画やゲームなどの光ディスクを量産する金型、光ファイバーに接続する光コネクタ、自動車内部に搭載するセンサー用部品、テレビ中継の電波を送受信する装置など、当社グループの製品は、幅広い産業分野を支えています。意外に身近なところにある精工技研。その一部をご紹介します。

テレビ放送

光製品関連

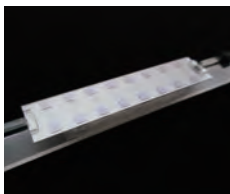
テレビ中継用の電波を長距離伝送するための光伝送装置を製造しています。電波を光信号に変換し光ファイバーで伝送することによりクリアな映像を安定的に届けることが可能です。



5G電界測定

光製品関連

5Gで使用される28GHz（ギガヘルツ）帯の高周波電波を正確に測定することができる光電界センサーを新たにラインアップに加えました。研究機関や5G機器メーカーに向けて販売を開始します。



光通信ネットワーク

光製品関連

快適なインターネット環境を支える光通信ネットワークに向けて、光コネクタなどの接続部品を提供しています。これらの部品を製造する際に不可欠な光コネクタ研磨機は、世界トップシェアを誇っています。



データセンター

光製品関連

大容量のデジタルデータを保管しておくためのデータセンターの建設が世界中で進んでいます。当社の光コネクタは中国の最大手データセンター事業者採用され、巨大な中国IT市場の発展を支えています。

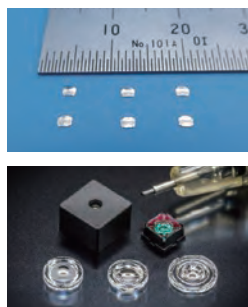


電子機器

精機関連

光製品関連

高速精密プレス成形技術を駆使して、スマートフォンやキーボードに使用されるドーム型接点（スイッチ用板バネ）を量産しています。近年ではウェアラブル機器にも搭載され、更なる需要拡大も期待されています。超小型の樹脂レンズは、スマートフォンのフラッシュライトや顔認証用レンズとして採用されています。



光ディスク

精機関連

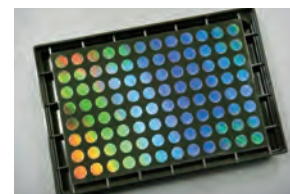
CD、DVD、Blu-rayなどの光ディスク量産用金型は、世界中の光ディスクメーカーに採用されています。映画やゲームなどのデジタル情報が書き込まれた光ディスクの多くは当社の金型から生み出されています。



細胞培養

精機関連

細胞を培養するための樹脂製の容器を製造し、バイオ関連の顧客に提供しています。容器底面の微細な凹凸形状には、精密金型と微細転写の高度な成形技術が用いられています。



自動車

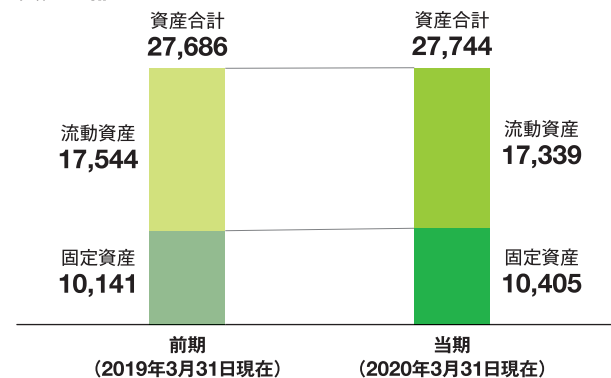
精機関連

樹脂と金属を一体化するインサート成形技術を活用し、自動車用センサー（エアコン冷媒圧・ブレーキ圧・日射等）に使用される高精度な部品を量産しています。また、成形品に電子部品を組み付けた電動コンプレッサー部品も手掛けており、ハイブリッド車や電気自動車に多数搭載されています。

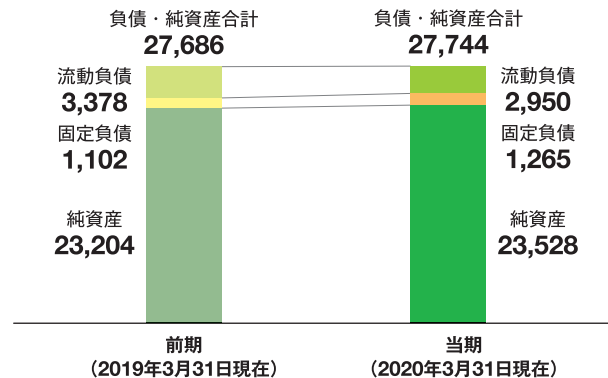


## 連結貸借対照表

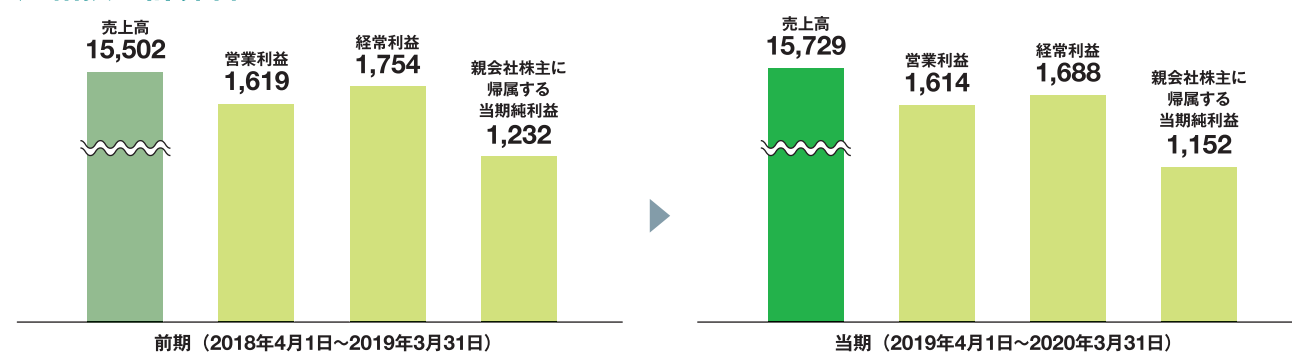
### 資産の部



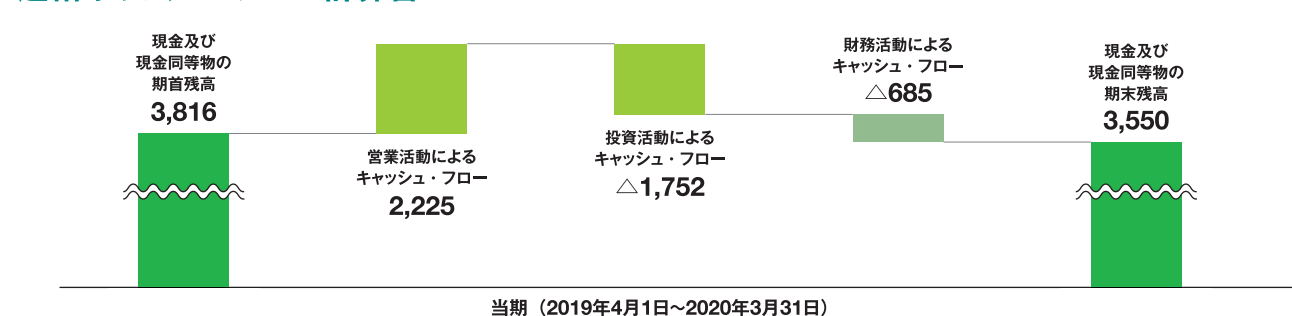
### 負債・純資産の部



## 連結損益計算書



## 連結キャッシュ・フロー計算書



## 会社概要

会社名	株式会社 精工技研
本社	千葉県松戸市松飛台296番地の1
創業	1972年6月
資本金	6,791,682,700円
従業員数	978人
グループ会社	子会社 SEIKOH GIKEN USA, INC. 杭州精工技研有限公司 SEIKOH GIKEN EUROPE GmbH 大連精工技研有限公司 不二電子工業株式会社 DATA-PIXEL SAS 関連会社 浙江精工光电科技有限公司

## 役員

代表取締役社長	上野 昌利
専務取締役	木村 保
常務取締役	來 関明
常務取締役	上野 淳
取締役(社外取締役)	大久保 勝彦
取締役(社外取締役)	谷田貝 豊彦
取締役(監査等委員)	森 保彦
取締役(監査等委員、社外取締役)	三好 徹
取締役(監査等委員、社外取締役)	相場 俊夫

## 株式の状況

発行可能株式総数	37,000,000株
発行済株式の総数	9,333,654株
株主数	3,514名

## 大株主の状況

株主名	持株数(株)	発行済株式(自己株式を除く.)の総数に対する所有株式数の割合(%)
上野 昌利	871,000	9.45
有限会社高志	654,400	7.10
木村 保	593,200	6.44
有限会社光研	583,500	6.33
細江由紀子	432,500	4.69
都丸由美子	430,500	4.67
上野 淳	339,900	3.69
吉田 智恵	339,000	3.68
高橋 藤子	271,600	2.95
細江 一稀	259,000	2.81

## 所有者別株式分布状況

